

# 国民生活安定緊急措置法施行令の 一部改正案について

---

令和 8 年 1 月  
**農林水産省**

# 国民生活安定緊急措置法施行令の一部改正（米穀の転売規制の解除）

## 1. 概要

- 本年6月23日に、米穀の小売店における欠品や購入制限が確認されるような状況にある中、備蓄米を含め、米穀の高値での転売を防ぎ、米価の更なる上昇を防ぐため、国民生活安定緊急措置法に基づく転売規制を措置。
- 同法では、本規制は、「事態克服に必要な限度を超えてはならない」とされているところ、米の供給については、令和7年産米の生産量が直近10年程度で最大になる見込みであるなど、需給状況が緩和傾向。
- このため、国民生活安定緊急措置法施行令を改正し、米穀の転売規制を解除することとしたい。

○国民生活安定緊急措置法  
（割当て又は配給等）

第二十六条 物価が著しく高騰し又は高騰するおそれがある場合において、生活関連物資等の供給が著しく不足し、かつ、その需給の均衡を回復することが相当の期間極めて困難であることにより、国民生活の安定又は国民経済の円滑な運営に重大な支障が生じ又は生ずるおそれがあると認められるときは、別に法律の定めがある場合を除き、当該生活関連物資等を政令で指定し、政令で、当該生活関連物資等の割当て若しくは配給又は当該生活関連物資等の使用若しくは譲渡若しくは譲受の制限若しくは禁止に関し必要な事項を定めることができる。

2 前項の政令で定める事項は、同項に規定する事態を克服するため必要な限度を超えるものであつてはならない。

## 2. 米穀の供給状況

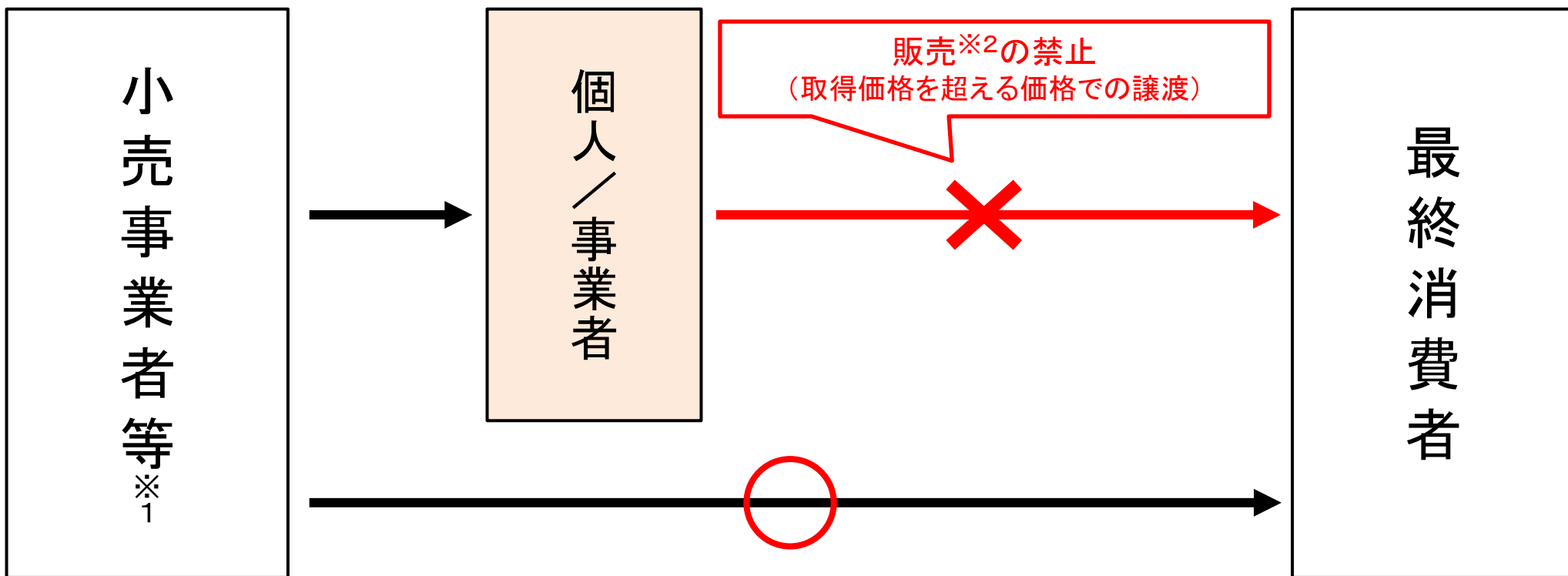
- 令和7年産米の生産見通しは需給見通しで748万トンと前年比で約67万トン増加し、直近10年程度で最大になる見込みであることや、本年11月末時点の民間在庫量が329万トンと、おおよそ平年並みまで回復するなど、需給状況は緩和傾向。

## 3. 施行期日等

令和8年1月中旬 予定

## 参考資料

---



※<sub>1</sub> 一般消費者に対して直接販売する集荷事業者、卸売事業者、農家や個人も含む

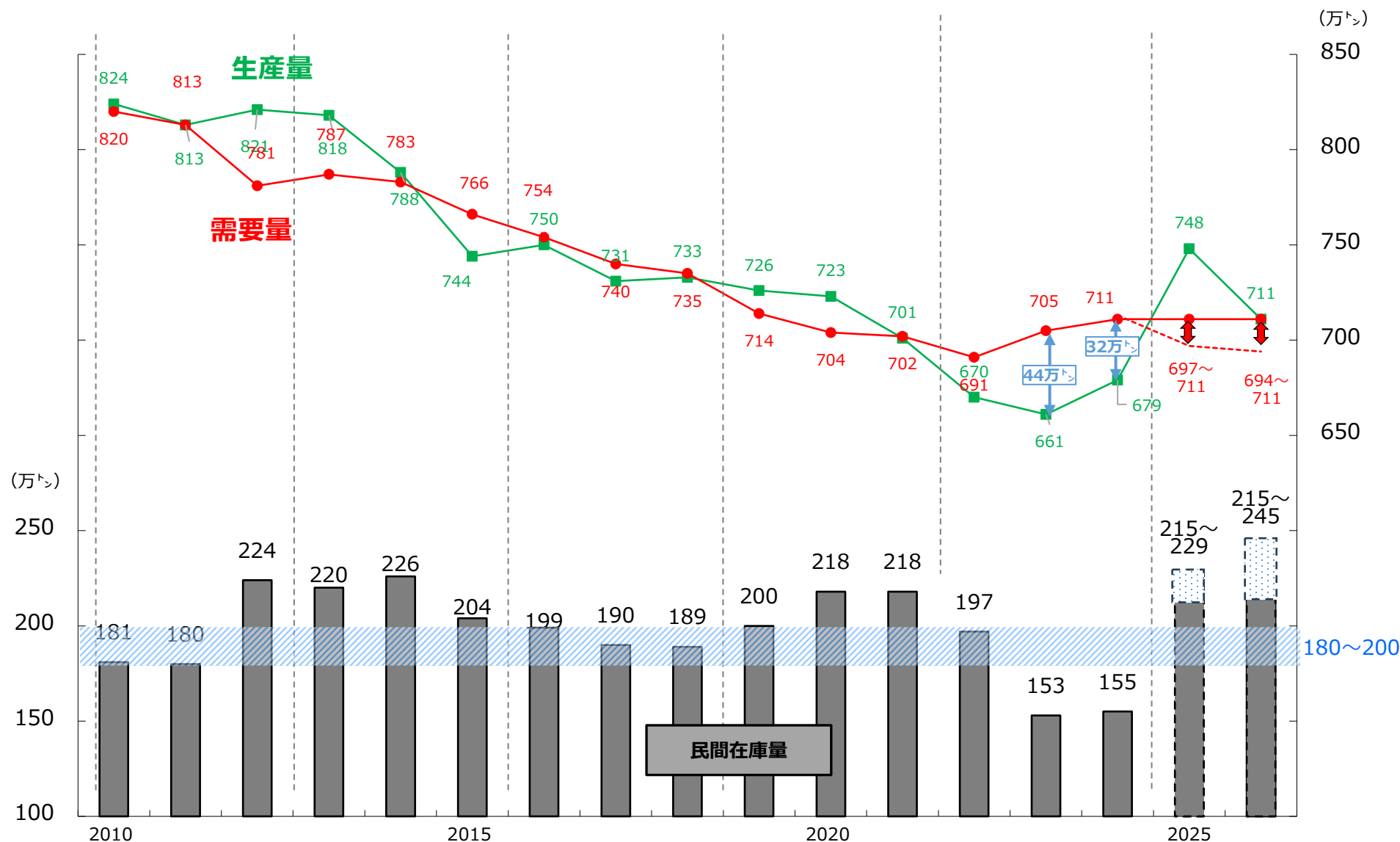
※<sub>2</sub> 不特定の相手方に対して販売をする者から製品を購入し、購入価格(仕入価格)を超える価格で、不特定又は多数の者に対して、店舗、フリーマーケットや露店、インターネット(SNS含む)等で販売する行為

○対象: 米穀

○違反者に対しては、一年以下の拘禁刑若しくは百万円以下の罰金

○公布日から10日後(6月23日)に施行

# 米穀の需給の推移と見通し



注 1) 需要量は当年 7 月から翌年 6 月までの需要実績、生産量は「作物統計」の主食用米の生産量であり、2025(R7)年以降は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」における見通しの数値である。

注 2) 民間在庫量は翌年 6 月末現在の数値である。

# 令和7年産米の生産見通し

## 令和7/8年の主食用米等の需給見通し

## 令和8/9年の主食用米等の需給見通し

(万玄米ト) (万精米ト)

(万玄米ト) (万精米ト)

令和7年6月末民間在庫量	A	155	138
令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	748	662~670
うち生産者ふるい目幅以上	C	715	
うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	32	
令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21
令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	926	822~829
令和7/8年主食用米等需要量	G	697~711	624~631
令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	215~229	191~205

令和8年6月末民間在庫量	H	215~229	191~205
令和8年産主食用米等生産量	I	711	630~637
令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	926~939	821~841
令和8/9年主食用米等需要量	K	694~711	622~630
令和9年6月末民間在庫量	L=J-K	215~245	191~220

○令和8年産主食用米等生産量  
→需要に応じた生産量として、令和8/9年需要量の上限値(711万玄米ト)に設定

○令和8/9年主食用米等需要量  
→直近5年(令和2/3年~6/7年)の需要実績(精米ベース)を基に算出した1人当たり精米消費量(平均値~最大値):50.2Kg/人~50.8Kg/人  
→令和8年の人口(推計値):122,569千人  
→令和8/9年のインバウンド需要(推計値):6.6万精米ト

- ※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入は21万玄米トを予定。これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。  
 ※2 政府備蓄米の放出(全体で約59万玄米ト)に係る買戻し及び買入は、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

# 米穀の民間在庫量(令和7年11月末時点)

○ 令和7年11月末現在の民間在庫量は、出荷段階（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年差+70万玄米トンの329万玄米トン。（出荷段階は前年差+47万玄米トンの247万玄米トン、販売段階は前年差+22万玄米トンの82万玄米トン）

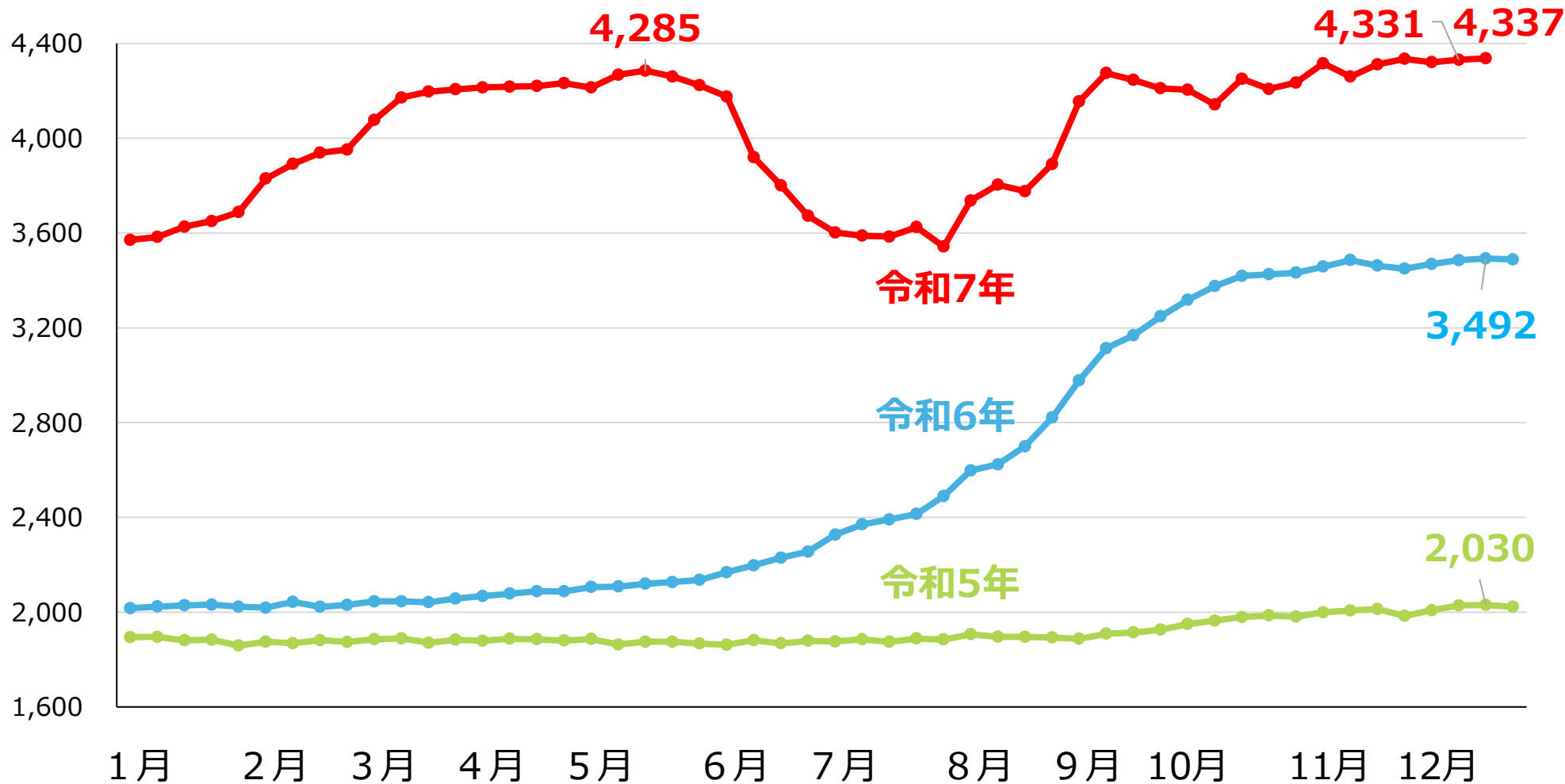
【民間在庫量の推移(出荷+販売段階) (速報)】

	毎月調査ベース												基本指針 ベース
	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	6月
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154	200
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23	+11
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173	218
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19	+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172	218
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1	▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153	197
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18	▲21
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115	153
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38	▲44
6/7年	82	65	149	244	259	253	229	205	180 (0)	168 (16)	148 (20)	121 (12)	155 (12)
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲34	▲12	+3	+6	+3
出 荷 段 階	58	44	113	187	200	196	179	159	135 (0)	125 (14)	109 (16)	84 (8)	
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0	
販 売 段 階	25	21	36	58	59	56	50	46	45 (0)	43 (2)	40 (3)	37 (4)	
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6	
7/8年	92 (5)	84 (2)	197 (1)	306 (0)	329 (0)								
対前年差	+10	+19	+48	+62	+70								
出 荷 段 階	60 (3)	51 (0)	144 (0)	226 (0)	247 (0)								
対前年差	+2	+7	+31	+39	+47								
販 売 段 階	32 (3)	33 (2)	53 (1)	81 (0)	82 (0)								
対前年差	+8	+12	+17	+23	+22								

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
注： 1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
4 期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。  
5 令和7年3月以降の（ ）書きは、売り渡した政府備蓄米の在庫数量（内数）である。

# 米の小売価格の推移

(円/5kg、税込)



資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成。

注: (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。